

3月定例会代表質問

市民の命を守る防災・危機管理を



米原市民報

日本共産党米原市議員
山脇正孝 Tel.52-1093
日本共産党米原市議員
藤田正雄 Tel.55-1527

<http://www.jcp-maibarashigidan.com/>

2月25日会派代表質問が行われました。日本共産党米原市議団を代表して山脇議員が代表質問を行いました。代表質問の最後3番目に行いました。概要①は次のとおり

山脇議員の代表質問

テーマは「防災・危機管理における行政の役割と施策について」です。正月の能登半島地震を受けて、米原市における防災計画や危機管理について見直しを質問しました。

正確な情報の確保を

Q、正確な災害情報を適切に発信する必要性と心構えは

A、災害時の情報発信につきましては、確実に市民に情報が届くように、放送装置の点検などを行っております。効果的な訓練内容に努めているところです。特に緊急時には正常化バイアスを打ち消すための様々な手法も用いながら迅速かつ適切な情報発信が行えるよう日頃からの訓練を重ねてまいります。

Q、地域防災計画の見直しおよび計画の広報については

A、今回の能登半島地震では道路などの交通網の被害が著しく、半島特有の地形もあり物資の運搬やボランティアの受け入が難しい状況となりました。また、避難所運営においても女性や配慮が必要な方々への対応などの課題も改めて顕在化したと聞いております。こうした能登半島地震の教訓を踏まえるとともに、震災に備えるべき情報の収集を行い、市防災計画の見直しを行います。

インフラ整備の計画は

Q、防災上のインフラ整備で重視していることは

A、令和6年度では、長久寺跨線橋の修繕と耐震化検討、ほか2橋の橋りょう修繕や、

緊急輸送道路である市道能登瀬多和田線や市道顔戸能登瀬線ほか5路線の舗装修繕について実施を予定しています。次に、ライフラインの上下水道については、浄水場や下水処理場等の施設や管路の破損が想定されるため、耐震化に係る計画に基づき、重要度、優先度を基準に財政収支のバランスも考慮の上、耐震化を進めています。また、避難所機能の維持は重要であるため、上水道では配水池から広域避難所までの配水管路の耐震化を進めています。下水道では同じく広域避難所において、マンホールトイレを設置するとともに、下流の管路の耐震化を進めています。令和6年度では、上野地先の配水管の耐震化、春照小学校・柏原小学校・息長小学校などでマンホールトイレの設置を予定しており、今後も計画的に耐震化を進め、災害時においても避難所の機能が維持できるように取り組んでいきたいと考えています。

長寿命化計画の見直しを

Q、災害に対応できる橋りょう長寿命化修繕計画の見直しと取組の早期化を

A、平成26年度から平成30年度までの5年間に、すべての橋りょう386橋を対象に実施した点検結果により、損傷の程度、緊急輸送道路・避難所へのアクセス・道路の不通等による集落の孤立防止などの災害時への配慮や、通学路指定、水道などのライフラインが添架されているかなどを総合的に評価し、令和2年度に計画を策定しています。災害時の緊急輸送道路など集落へ通ずる道路の寸断を回避する

ために必要となる橋りょうで河川のなかに橋を支える柱が1箇所以上ある橋においては、橋の崩落防止のための耐震化工事を実施するなど、計画的に修繕を進めています。

Q、防災教育と訓練についてアンケートなどの調査実施の必要性はどうか

A、防災に関するアンケートについては、令和5年度米原市民意識調査に防災情報の項目を設け、防災対策のアンケートを行っております。

学校授業での取り組みは

Q、学校の防災教育の授業実践例はあるか

A、市内の全小中学校では避難訓練を行い、児童生徒も教職員も自分の命を自分で守る意識を高めています。教科の学習では、小学校3・4年生の社会科で自然災害について学び、関連して国語科で防災についての自分の考えをまとめる活動をするなど、児童は防災について主体的に学んでいます。小学校5・6年生の理科では、気候や流れる水の働きなどの自然現象を学ぶことを通じて防災教育を行っています。中学校では理科、社会科、保健体育科、家庭科など複数教科で各種自然災害に関する学習をしています。(次号に続く)

